



3月 5日 (金) **幸せを願って ひな人形をプレゼント**



小波津にある学童みらいクラブへ、地域に住む方から7段飾りのひな人形が寄贈され、ひなまつりが開催されました。児童は、豪華できれいなひな人形に喜ぶつ、紙芝居を見たり、歌を歌ったり、だんごやひなあられを食べてひなまつりを楽しんでいました。宮城トモ子代表は「いただいたひな人形は、みらい学童の宝としてずっと大切にしていきます」と感謝を述べ、寄贈した方は、「娘が巣立った後飾る機会がなかったから、学童の子どもたちにこんなに喜んでもらえてとても嬉しいです」と児童を温かく見守っていました。

2月25日 (木) **備蓄米を使った給食**



今年度は大きな災害もなく年度末を迎えることができ、賞味期限が近づいた災害用備蓄米「アルファ米」を利用した炊き込みご飯が給食で提供されました。アルファ米は炊飯した米を急速に乾燥させたもので、長期保存が可能で洗米の必要がなく、お湯か水を注ぐだけで食べることができます。炊き込みご飯を食べた西原南小6年2組の宮城侑季(みやぎゆいき)さんは、「味がしっかりしていておいしいです」と笑顔を見せました。災害に備えて食料品の備蓄をされている家庭も多いと思いますが、食品ロスをなくすためにも、賞味期限や消費期限を今一度確認しましょう。

おいしい!

おかわりもしたよ♪

2月15日 (月) **イルカ公園にさわふじを植樹**



(一社)沖縄県建設業協会浦添・西原支部から、町花木でもあるさわふじ35本の寄贈が行われました。名嘉太助(なかたすけ)支部長は「地域のまちづくりのため、社会貢献のために、できることをやろうと昨年からはスタートした取り組みです」とあいさつし、大城好弘(おおしろよしひろ)議長は「大きく育ち、花が咲くのが楽しみです」と感謝を述べました。さわふじは東崎都市緑地(イルカ公園)内の水路沿いへ植樹され、来年の初夏ごろにはさわふじの花を見ることができます。

2月 4日 (木) **ことぶきプラン2021 答申**



西原町では、令和3年度から5年度までの3年間の高齢者福祉施策や介護保険事業の方向性について示す、「ことぶきプラン2021(西原町高齢者保健福祉計画)」の策定を行ってまいりました。介護保険制度改正に伴う国の基本指針等を踏まえて、地域包括ケアシステムの構築並びにその他取り組むべき必要な事項等の審議が行われ、このたび、前田光智(まえだみつとも)委員長から町長へ答申書が手渡されました。崎原盛秀町長は「地域の課題を反映した本プランに基づき、高齢者が住み慣れた町で安心して暮らせるよう尽力していきます」と述べました。

1月 **南部セリ 町の牛が華牛を席巻!**



今年1月に開催された肉用牛(黒毛和種)丑年初セリにて、宮城正信(みやぎまさのぶ)さんと園田三郎(そのださぶろう)さんが愛情込めて育てた子牛が見事華牛(はなうし)に選ばれました!初セリに上場した牛の中から3頭が華牛として選抜されますが、その内2頭が西原町で生産された子牛でした。宮城さんは、「丑年の初セリで華牛を出すことができ本当にうれしい。コロナ情勢が厳しいが、みなさんの所においしいお肉が届けられるようこれからも肉用牛の生産に精進していきたい」、園田さんは、「華牛をとることができたのは家族や周りの皆さんのサポートがあつてのことでとても感謝している。今年で84歳になるが90歳まで現役で農業を続けられるよう健康に気を付けて家族みんなと頑張りたい」と喜んでいました。

2月25日 (木) **琉球大学 地域プロジェクト実践発表**



琉球大学集中講義「地域プロジェクト実践」発表が、西原さわふじマルシェ内西原劇場で行われました。学生は、グループでさわふじマルシェに関してそれぞれテーマを設定し、現場で調査、結果を分析し、工夫を凝らしたアイデアを提案しました。マルシェの宣伝方法について、さわりんが島野菜などを料理する動画などでもっとアピールするアイデアを出した鹿野洗介(しかのこうすけ)さん(工学部4年)は「卒業後、自分も地元の市役所で働く予定なので、地域の人と関わって改善点を考えていくこの経験がとてもためになりました」と笑顔を見せました。崎原盛秀町長は「今回大きな学びがたくさんありました。若い皆さんからの提案を今後のまちづくりの参考にさせていただきます」と感謝を述べました。

2月19日 (金) **坂田小で中学生が読み聞かせ**



坂田小の朝の読み聞かせの時間を利用して、西原中学校の生徒が絵本の読み聞かせを行いました。3年1組では、中学3年生の真谷真生(さだかねまお)さんと大嶺若日子(おおみねわかこ)さんがそれぞれ「しげちゃん」と「みつくてん」の読み聞かせを行い、児童は真剣な表情で聞き入っていました。読み聞かせ後には質問タイムがあり、金城明美(きんじょうあけみ)校長は「児童は不思議に思うことをなぜ?と問いかけることで理解が深まっています。とてもいい読み聞かせでした」と笑顔を見せました。両校では、お互いの学校の掲示物を交換して展示するなど、日頃から交流しています。

2月 5日 (金) **大城久美子さん 油彩画を寄贈**



西原町我謝にお住まいだった大城久美子さん(現那覇市在)より、町役場町長室へ油彩画の寄贈がありました。作品は「季-路地-」をテーマにした100号(150cm×180cm)の大作で、美しい緑のグラデーションをベースに、チランや布などいろいろな材質の材料でコラージュされています。大城さんは「飾ってもらってとても嬉しいです」と笑顔を見せました。崎原盛秀町長は「迫力があつても美しいです。ありがとうございます」と感謝を述べました。

2月19日 (金) **男女共同参画講演会 LGBTQについて学ぶ**



LGBTなどのセクシャルマイノリティ(性的少数者)への偏見・差別などの問題について認識を深め、男女共同参画社会の実現を目指した「性の多様性を尊重するまちづくり～LGBTQについて学ぶ～」(町女性団体連協協議会主催・西原町共催)が町民交流センターで開催されました。講師を務めた琉球大学法科大学院教授の矢野恵美(やのえみ)さんは、「セクシャルマイノリティはいい、悪いとか、正しい、間違いというものではない。それらを尊重することでマジョリティ(多数側)の生活は何も変わらない。尊重される人の数が増えるだけ」と分かりやすく説明していました。新型コロナの影響を受け、参加者を限定した形での開催になりましたが、参加者からは「周囲にセクシャルマイノリティの人がいても気づいていないだけかも。もっと勉強したい」との感想が聞かれました。

2月12日 (金) **プロビーチバレーボール 坂口・村上ペア 表敬訪問**



プロビーチバレーボール選手の坂口佳穂(さかぐちかほ)選手(右から2番目)・村上礼華(むらかみれいか)選手(右から4番目)が、西原きらきらビーチでの合宿の合間を縫って町役場を訪れ、今シーズンの抱負を述べました。村上選手は「練習はしんどいけど、食べ物がおいしくてリフレッシュできています。タコライスやゴーヤチャンプルーが好きです」と笑顔を見せ、坂口選手は「きらきらビーチでの合宿は久しぶりですが、ノーストレスでいい合宿ができています。いい報告ができるよう一生懸命頑張ります」とあいさつしました。

文化財コラム **春の鳥たち**

春の山野もすっかり若芽が萌え、さわやかな鳥の音が聞こえてきます。常にみかけるメジロやウグイスも、春になると軽やかに飛び回っているかのようです。

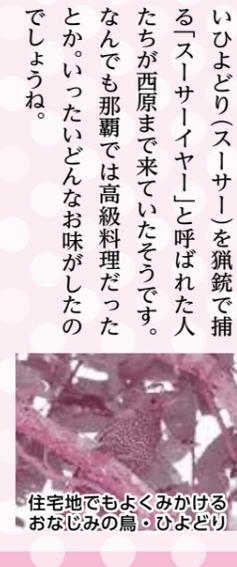


メジロ

アカショウビン

アカショウビンは南方から春に渡ってくる鳥で、西原町では「クカル」などと呼ばれています。見た目はきれいな赤色をしています。渡り鳥だからなのでしょう。町内には「鳴く方向に災いがあるとされ、忌み嫌われた」との言い伝えが残されています。

また、旅の途中で春と秋に飛来するリュウキュウツバメは町内で「マッターラー」と呼ばれており、ひらりと急旋回するツバメを、子どもたちは自作のパチンコで狙い撃ちしたといえます。なんともぶっさうな遊びですが、戦前には、人なつっこいひよどり(スーサー)を猟銃で捕る「スーサーイヤー」と呼ばれた人たちが西原まで来ていたそうです。なんでも那覇では高級料理だったとか。いったいどんなお味がしたのでしょうか。



住宅地でもよくみかけるおなじみの鳥・ひよどり

スマートでカッコいいリュウキュウツバメ

お問い合わせ 文化課文化財係 944-4998